

2026年度 9月 1日



オ リ ー フ 通 信

見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください。

ルカによる福音書 15章 6節

神愛保育園

「人とのつながりの中で育つもの」

8月中旬から天候が不安定になり、各地で豪雨が相次ぎました。千葉県での豪雨被害は、私たちにとっても決して遠い場所の出来事ではなく、ニュースを見ながら他人事とは思えない恐怖を感じました。

被害に遭った保育園のニュースでは、「お盆で利用者がみんな帰園した後だったことが幸いでした」と話されていましたが、園舎は浸水し、遊具や棚などの片づけ、消毒作業など、再び子どもたちを迎え入れるためには大変な作業が必要だったそうです。その様子を見て、保育園は子どもたちの命を預かる場所であるからこそ、日頃から災害への備えを考えておくことの大切さを改めて感じました。

その後、夜中に大きな地震があり、清澄のあたりでは水道管が破裂したという情報も入りました。大雨、地震、猛暑など、自然災害が私たちの身近なところで起こる可能性を、以前にも増して感じるようになっていきます。「もし今、災害が起きたら」と日頃から考え、避難訓練や備蓄の確認だけでなく、職員一人ひとりが状況に応じて子どもたちの命を守る判断ができるよう、備えていきたいと思います。

さて、神愛保育園では、30年以上前から「一日保育士さん」という取り組みを行っています。学校が夏休みの期間に、日頃触れ合うことの少ない小さな子どもたちと一緒に過ごし、遊びや生活を通して、頼りにされる嬉しさや、自分の力を誰かのために役立てる喜びを感じてもらう機会です。今年も卒園児を中心に、7名の小学生や高校生が参加してくれました。

園児たちは、初めて出会うお兄さん、お姉さんの姿を見ると、「一緒に遊ぼう!」と嬉しそうに声を掛けていました。また、食事の際には、一日保育士さんがお腹いっぱい食べきれない様子に気づき、「食べられないの?」「残しても大丈夫だよ」と声を掛ける姿もありました。思わず「どっちが保育士さんなのかな」と微笑ましくなる一場面でしたが、そこには、相手の様子を見て気持ちを想像し、自分にできることをしようとする子どもたちの育ちが感じられました。

災害への備えも、子どもたちの成長も、一人だけではできません。困ったときに助け合うこと、相手を思いやること、そして「自分も誰かの力になれる」と感じることで、こうした人とのつながりの中で得られる経験が、これからの社会を生きていく子どもたちの力になっていくのだと思います。

子どもたち一人ひとりの小さな気づきや変化を大切にしながら、安心して自分らしく過ごせる毎日を、保護者の皆様とともにつくっていききたいと思います。

園長 大滝忍



食事だより



今年も夏野菜で餃子ピザを作りました！



食材の説明を真剣に聞いています



餃子の皮にピザソースを塗ります



みんな丁寧に塗っていました！



野菜をトッピングします



玉ねぎ・ピーマン・コーンをお好みで♪

コーンを多めにしちゃおう！
など、それぞれ楽しみながら
トッピングしていました！



最後にたっぷりのチーズをのせて、出来上がり！



上手に焼けました！

みんなで「おいしいね！」と
言いながら食べていました！



具材には収穫したピーマンも入れました。
今年度も夏野菜をたくさん収穫することが
出来ています！猛暑の中、しっかりとお世話を
頑張ってくれた子どもたちに感謝です。
来年もたくさん実って、様々な食育活動が
できることを期待しています。

私の好きなメニュー

※職員の好きな食事のメニューを聞きました！

神愛歴7年 ☆

さばのおにぎり：2年前くらいに出た幻の1品です。さばの脂・旨味・風味全てが美味しくて
たまらなかったです。どこかのお店に出ていてもおかしくないくらいとても美味しく、
他にも好みのメニューはたくさんありますが、さばのおにぎりは飛び抜けていて
私の中ではNo.1です。（元々さばが好きなものもありますが…）
残念ながら7年勤めていて1回しか出たことがなく、あの味が忘れられません。
このおにぎりを食べてからより一層さばが大好きになりました。
できれば定番メニューとして復活させてほしいです。

※来月、さば飯が登場します！！

保健だより 2026 年 9 月



8 月は厳しい暑さと強い日差しが続き、園では天候や水温の条件を見ながら、プールやシャワーの活動を行いました。元気いっぱい夏を過ごした子どもたち。これから夏の疲れが出やすくなる時期になり、自律神経の乱れから体調を崩す子どもが増えます。「早寝・早起き・朝ごはん」を意識し、ゆっくりお風呂に入りたっぷり睡眠をとるなどして体調を整えていきましょう。



【まだまだ夏の感染症】

残暑が長引くことが予想され、まだまだ夏の感染症に注意が必要です。咽頭結膜炎（プール熱）は高熱と目やにや充血など目の症状が出ます。流行性角結膜炎（はやり目）も目の症状が主ですが発熱は伴わない場合もあります。どちらも感染力が極めて強いので、タオルは共有せずにこまめな手洗いがが必要です。ヘルパンギーナはのどに水疱や潰瘍ができ、強い痛みを伴います。高熱やのどの痛みで水分や食事がとれなくなることによる「脱水」に注意が必要です。

【気になる感染症】

2026 年 8 月、一部地域でインフルエンザ感染が増加しています。秋冬だけの感染症ではないため、夏でも注意が必要です。また、新型コロナウイルスは、例年夏にも感染者が増える「夏の波」がみられます。冷房による換気不足や、人の移動の増加などが原因と考えられています。夏の発熱は、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、熱中症などを症状だけで決めることはできません。「ただの夏風邪だろう」と様子を見ず、発熱が始まった時刻と症状を記録し早めに受診しましょう。



ひだまり



暦の上では秋を迎えましたが、まだまだ残暑が厳しく、汗ばむ日が続きそうですね。

今年は酷暑を想定し、水遊び・プール遊びのルールを見直すとともに、パラソルや小型ミストファンを準備して暑さ対策を行いました。暑い日が続く中、玄関先に出した噴水マットでは、水鉄砲やじょうろ、色付きの氷などを使って、さまざまな水遊びを楽しみました。また、クラスのテラスでのプール遊びでは、ウォーターウォールや金魚釣り、水車などを取り入れ、子どもたちは夢中になって遊んでいました。新たな利用者さんとの出会いや、保育園見学をきっかけとしたつながりもあり、今年の夏もたくさんの方にひだまりを利用していただきました。



夏野菜の栽培では、暑さの影響もあって思うように収穫することができませんでしたが、子どもたちは野菜のことを気にかけて、「野菜に水をあげたい」と、水遊びの合間にじょうろや水鉄砲を持って何度も往復し、水やりをしてくれました。遊びの中でも野菜を思いやる子どもたちの姿が、とても微笑ましかったです。

9 月には神愛まつり、10 月にはスポーツフェスティバルが予定されており、園児の皆さんと交流できる機会があります。子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごせることを、今から楽しみにしています。

～絵本紹介～

涼しい秋風に、高く澄んだ空。大きく深呼吸したくなるような気持ちのよい季節ですね。この過ごしやすい季節にぜひご家庭で楽しい時間が送れますように季節を感じられる絵本を紹介します。



「おつきさまこんばんは」

作：林 明子 出版社：福音館

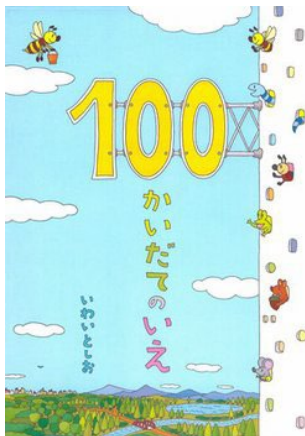
しずかな夜の空。屋根の上が明るくなって金色に輝くおつきさまが出てきました。「おつきさま こんばんは」。ところが、黒い雲がやってきて、おつきさまを隠してしまいます。でも、大丈夫。黒い雲はおつきさまと少し話をして、去っていきました。再びあらわれたおつきさまは、にっこり笑顔で「こんばんは」。まるで話しかけてくるようなおつきさまのやさしい表情に、子どもたちもにっこり。



「さつまのおいも」

絵：村上 康成 文：中川 ひろたか 出版社：童心社

おいもは つちのなかで くらしています。ごはんも たべるし はも み がきます。人間のように、土のなかで暮らしている、おいもたち。おやおや、何やらみんなでトレーニングをして、体を鍛えているようです。何のためかって？ それは、いもほりにきた子どもたちと、ある勝負をするため！さてさて、どんな勝負なのか、そして気になる勝敗は？
絵本を読んでものお楽しみ！



「100かいだてのいえ」

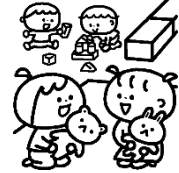
作：いわい としお 出版社：偕成社

100 階だての家の最上階にすむだれから、遊びにきてね、と手紙をもらったトチくん。地図を見ながら歩いていくと、高い建物があらわれました。上のほうはかすんでよく見えません。いろいろな動物がすむ 100 階だての家の探検がはじまります！60 階、70 階、80 階と不思議な部屋をのぼっていくうちに、どんどんてっぺんに近づいていきます。さて、てっぺんに住んでいたのは・・・！？100 階だてのいえは、シリーズ化されてどれも子どもたちの驚きの声がたくさん聞こえてくる絵本です。





ともにそだつ



私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。
園の中での子どもの様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、
喜びを共有したいと願いながら、この保育日誌紹介のコーナーを
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2026年 8月 13日（木） 天気 雨 ちゅりっぷ組（3歳児）

『おみこし「わっしょい！」』

今日は天候が不安定なため室内で過ごした。

AとBが「わっしょいわっしょい」とレゴを持ち上げて遊ぶ姿が見られたため「大きなおみこしをつくる？」と声を掛けると「やりたい！」と保育者の元へ集まる姿が見られた。新聞紙や段ボールを使い全員で担げるおみこしが完成すると「みんなでもとう！」「わっしょいって言うんだよ」などとAやCを中心に工夫して持つ姿が見られた。

みんなで持ち上げることが出来ると「みんなに見せに行こう！」と部屋の中をぐるぐると歩いて楽しむ姿が見られた。AとBの遊びから始まったお神輿づくりだったが途中から他の子どもたちも参加し、最後は全員での活動となった。

保育者が主導でお神輿を作り始めると様子を見ていた子どもたちも「ここに絵を貼ろう！」などと思いついたことを提案する姿が見られた。これからは子どもたちのやってみいたいという気持ちを大切に活動を行っていく。

天候が不安定な中でも、子どもたちの何気ない遊びの姿を丁寧に捉え、そこから全員で楽しめる活動へと発展させていることを読み取ることが出来ます。AやBの「わっしょい」という遊びをきっかけに、保育者が「大きなおみこしをつくる？」と提案したことで、子どもたちの「やってみいたい」という意欲が引き出され、友だちと一緒に作る・担ぐ・見せるという一連の活動につながっています。また、「みんなでもとう」「ここに絵を貼ろう」など、子ども同士で考えを伝え合いながら活動を進める姿から、協同性や主体性の育ちも感じられました。特に、一人の遊びからクラス全体の活動へと広がっていくことは、子どもの興味や発想を大切にしたい保育の実践でもあります。今後も、子どもたちのつぶやきや遊びを見逃さず、思いを実現できる環境や援助を工夫することで、さらに主体的な活動へとつながっていくと良いと感じています。

